

午後Ⅰ試験

問1

問1では、チャットボット開発の企画段階の監査を題材に、AIを利用したシステムの開発におけるリスク及びコントロールを理解し、コントロールの適切性を確認するための監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問3は、正答率が平均的であった。学習データ、教師データの評価と、学習結果の評価を取り違えたと思われる解答が散見された。AIの学習と結果評価のプロセスでは、データを増やして学習させ、結果を評価し、想定した結果が得られた場合に本番移行するということに気付いてほしい。

設問4は、正答率がやや低かった。AIの特性を記述した解答は少なかった。AIが示す結果が常に正しいとは限らず、その結果の正しさや利用可否を人間が判断すべきであることを理解するために、AIの特性を踏まえた教育が必要であることに気付いてほしい。

問2

問2では、システム再構築プロジェクトの企画段階の監査を題材に、再構築方式の選択に関連した企画段階でのリスク、コントロール、及びコントロールの適切性を確認するための監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問2は、正答率が平均的であった。再構築方式の評価項目として、“ビジネス目標”の視点が含まれているかどうかについて問うたが、監査証拠や技法を解答するだけで、具体的な確認ポイントがない解答が散見された。監査証拠をどのような観点で確認すべきかを理解してほしい。

設問3は、正答率が平均的であった。設計工程又はテスト工程での特有のリスクではない解答も散見された。リスクを具体的に把握し、それを低減させるコントロールを検討することの重要性を理解してほしい。

設問4は、正答率がやや低かった。システムが稼働する基盤が変更になることに伴い、単にプログラムを変換するだけでなく、バックアップ、リカバリなど方式の変更や、セキュリティ、性能面などの非機能要件の検討を十分に行うことの重要性について気付いてほしい。

問3

問3では、システム再構築プロジェクトの結合テストの監査を題材に、システム開発を外部に委託している場合の結合テスト完了評価に対する監査の観点及び監査手続について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問2は、正答率がやや低かった。生産管理システムの課題管理に関する監査手続を問うたが、品質管理に関する解答が多かった。また、抽象的な解答が多く、マスタデータの作成ミスに着目した具体的な解答が少なかった。設問に対応する本文の事例の内容を正確に読み取って解答してほしい。

設問3は、正答率が平均的であった。財務会計システムは生産管理システムだけでなく他業務システムともインタフェースがあるということを踏まえ、生産管理開発チーム内だけでなく開発チーム間での情報共有が必要であることに気付いてほしい。